

2018 年度 4 年次アンケート調査の結果報告

2020 年 3 月

東京女子大学 IR 専門委員会

2018年度4年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年12月～1月に、4年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「4年次アンケート」と表記）を行っている。このアンケート調査は、学部最終学年である4年次の学生が、本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、2018年度に実施した4年次アンケートの主な項目の分析結果を中心に報告する。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：質問紙調査

対象：東京女子大学に在籍している4年次学生、1010名（2019年1月1日時点）

調査期間：2018年12月5日～2019年1月31日

有効回答数：846名

有効回答回収率：83.8%

調査項目：アンケートの調査票は「基本事項」、「学業」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「学修支援」、「進路」、「その他」（自由記述）の項目で構成している。

本報告書では、「学業」に関する項目から、大学4年間の学生生活を通じての授業に対する満足度や、身についたと思うスキル・能力等を報告する。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（ p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ (small) , $\eta^2 = .06$ (medium) and $\eta^2 = .14$ (large) を用いた。

なお、参考のため過去5年間の回収率を表1に示しておく。回収率は、全ての年度において8割を超えている。

表1 年度別に見た4年次アンケートの回収率

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
84.2%	87.6%	86.3%	84.4%	83.9%	83.8%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラム科目の授業」、「第一外国語科目等の英語の授業」「学科（専門）科目」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の5つのカテゴリー別に、大学4年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。

「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合は、「英語の授業」を除いて9割以上であり、「英語の授業」に関しても8割は超えているため、授業に対する満足度は全体的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度（2018年度4年次アンケート）

	全く満足していない	満足していない	どちらかと言えば満足していない	どちらかと言えば満足している	満足している	大変満足している
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	0.7 (6)	0.8 (7)	6.2 (52)	31.7 (264)	49.9 (416)	10.7 (89)
全学共通カリキュラム	0.5 (4)	1.2 (10)	7.2 (60)	35.9 (299)	44.7 (373)	10.6 (88)
英語の授業	1.4 (12)	3.2 (27)	14.0 (117)	36.9 (308)	35.1 (293)	9.2 (77)
学科（専門）の授業	0.6 (5)	0.7 (6)	5.4 (45)	26.9 (225)	47.0 (393)	19.4 (162)
卒業論文・ Final Presentation・ 数学講究・情報理学講究	0.8 (7)	1.4 (12)	5.7 (48)	26.5 (221)	45.0 (376)	20.5 (171)

注：各項目について欠損値（10～12人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、志望順位別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表12）。

表3 専攻別にみた「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.00	0.778	34	$\eta^2 = .033$
日本文学	4.75	0.858	96	
英語文学文化	4.60	0.855	124	
史学	4.72	0.771	78	
国際関係	4.53	0.887	76	
経済学	4.45	0.913	56	
社会学	4.42	0.854	55	
心理学	4.64	0.789	78	
コミュニケーション	4.37	0.805	93	
言語科学	4.69	0.861	81	
数学	4.65	0.755	31	
情報理学	4.81	0.821	32	
合計	4.61	0.845	834	

表4 専攻別にみた「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.00	0.696	34	$\eta^2 = .038$
日本文学	4.69	0.851	95	
英語文学文化	4.47	0.878	124	
史学	4.76	0.788	79	
国際関係	4.39	0.910	76	
経済学	4.39	0.908	56	
社会学	4.43	0.850	56	
心理学	4.56	0.799	78	
コミュニケーション	4.33	0.785	93	
言語科学	4.64	0.885	81	
数学	4.45	0.850	31	
情報理学	4.71	0.864	31	
合計	4.55	0.856	834	

表5 専攻別にみた「英語の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.74	0.931	34	$\eta^2 = .028$
日本文学	4.19	1.029	96	
英語文学文化	4.48	0.897	124	
史学	4.42	1.038	78	
国際関係	4.15	1.159	75	
経済学	4.20	1.069	56	
社会学	4.11	0.985	56	
心理学	4.19	0.981	78	
コミュニケーション	4.06	0.918	93	
言語科学	4.43	0.961	81	
数学	4.35	1.170	31	
情報理学	4.31	1.230	32	
合計	4.29	1.019	834	

表6 専攻別にみた「学科（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.29	0.719	34	$\eta^2 = .039$
日本文学	4.92	0.914	96	
英語文学文化	4.81	0.908	124	
史学	4.91	0.874	80	
国際関係	4.72	0.810	76	
経済学	4.59	0.987	56	
社会学	4.45	0.913	56	
心理学	4.85	0.839	78	
コミュニケーション	4.70	0.752	92	
言語科学	4.60	0.931	81	
数学	4.61	0.803	31	
情報理学	4.91	0.995	32	
合計	4.77	0.887	836	

表7 専攻別にみた「卒業論文・Final Presentation・数学講究・情報理学講究」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.79	1.038	34	$\eta^2 = .029$
日本文学	4.71	1.114	96	
英語文学文化	4.73	0.933	123	
史学	4.80	0.973	80	
国際関係	4.83	0.823	76	
経済学	4.63	0.983	56	
社会学	4.54	0.852	56	
心理学	4.79	0.827	78	
コミュニケーション	4.57	0.925	93	
言語科学	4.71	1.009	80	
数学	5.10	0.790	31	
情報理学	5.31	0.821	32	
合計	4.75	0.949	835	

表3～表7には専攻別に授業に対する満足度に関する5項目の平均値および標準偏差を示している。これらの表を見ると分かるように、専攻間で多少の差はあるにせよ、全体的にみて授業に対する満足度が高く、専攻による大きな違いは見られない。

表8～表12では、授業に対する満足度について志望順位別に比較した。効果量を見ると、志望順位間にさほど大きな違いは見られないが、全学共通カリキュラムの授業（表9）、学科（専門）科目の授業（表11）では志望順位が高いほど授業に対する満足度が高い結果となった。

表8 志望順位別に見た「授業全般」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.75	0.778	240	$\eta^2 = .035$
第二志望	4.68	0.773	164	
第三志望	4.69	0.667	167	
第四志望以下	4.38	0.994	259	

表9 志望順位別に見た「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.65	0.857	242	$\eta^2 = .021$
第二志望	4.64	0.806	164	
第三志望	4.59	0.688	167	
第四志望以下	4.37	0.955	257	

表 10 志望順位別に見た「英語の授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.46	1.008	241	$\eta^2 = .023$
第二志望	4.31	0.997	163	
第三志望	4.33	0.846	167	
第四志望以下	4.08	1.108	259	

表 11 志望順位別に見た「学科（専門）の授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.88	0.879	243	$\eta^2 = .014$
第二志望	4.82	0.831	164	
第三志望	4.78	0.815	167	
第四志望以下	4.62	0.959	258	

表 12 志望順位別に見た「卒業論文・Final Presentation・数学講究・情報理学講究」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.73	1.038	242	$\eta^2 = .002$
第二志望	4.79	0.835	163	
第三志望	4.80	0.811	167	
第四志望以下	4.70	1.016	259	

上記5項目の得点を合計し項目数で割った項目平均 (M=4.60, SD=0.753, 最大=6, 最小=1, 因子分析で次元性も確認。α = .885) を算出し (以降「授業満足度得点」とする)、専攻別および志望順位別に満足度得点を比較した。

表13は、専攻別に見た授業に対する授業満足度得点の分析結果である。全ての専攻で授業満足度得点の平均値が4を越えており、授業に対する満足度は比較的高いと言える。効果量を見ると $\eta^2 = .032$ であり、授業満足度得点に関する各専攻の差はそれほど大きいものではないことが分かる。

表13 専攻別に見た授業に対する授業満足度得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.96	0.652	34	$\eta^2 = .032$
日本文学	4.66	0.786	95	
英語文学文化	4.61	0.763	123	
史学	4.72	0.734	76	
国際関係	4.52	0.740	75	
経済学	4.45	0.844	56	
社会学	4.41	0.739	55	
心理学	4.61	0.711	78	
コミュニケーション	4.42	0.647	92	
言語科学	4.62	0.806	80	
数学	4.63	0.699	31	
情報理学	4.85	0.759	31	
合計	4.60	0.753	826	

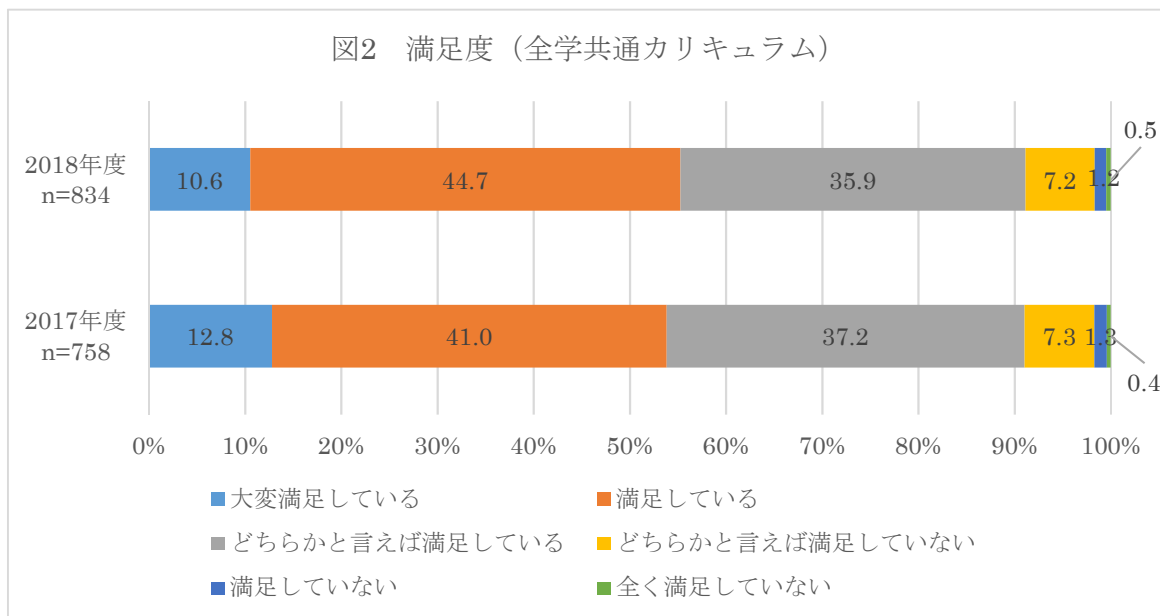
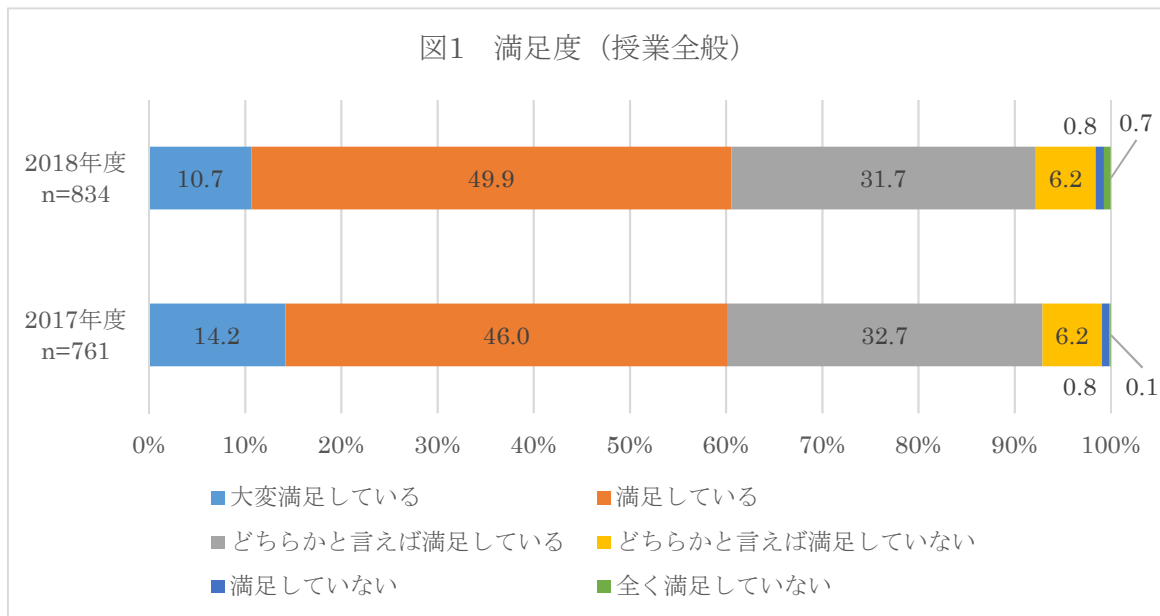
次に、志望順位別に見た授業満足度を比較した (表14)。志望順位が高ければ授業満足度が高くなる傾向だが、効果量を見ると $\eta^2 = .021$ と小さく、これもまたその差は小さいと言える。

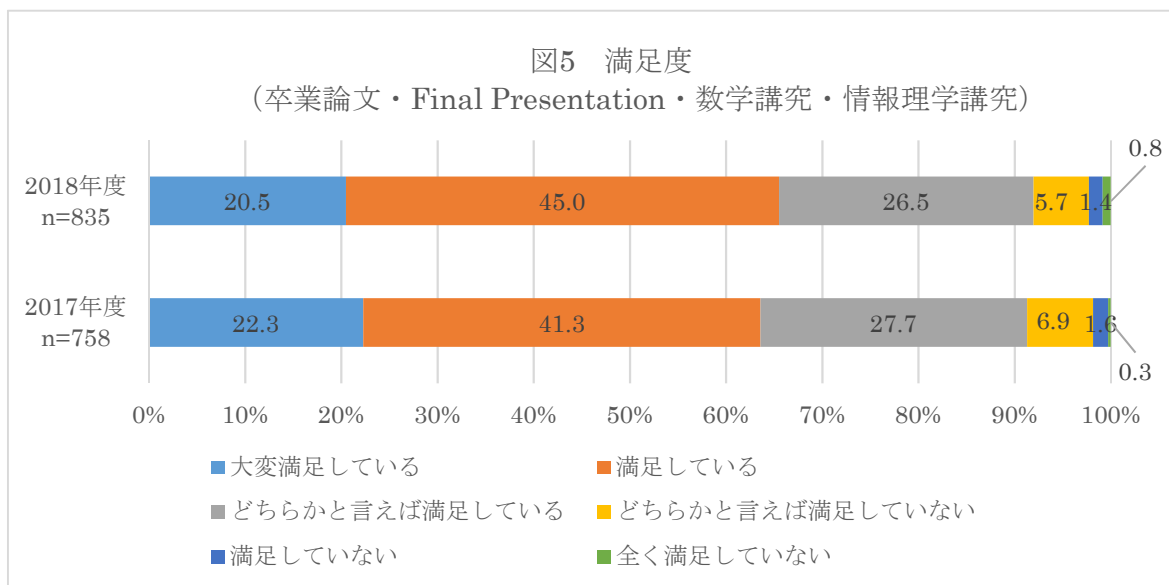
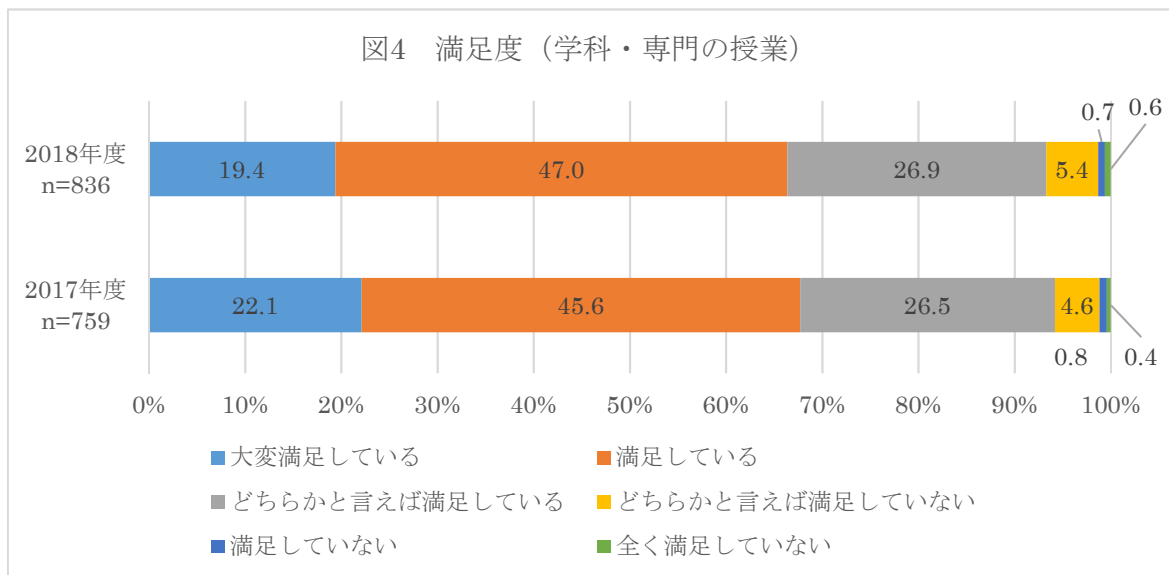
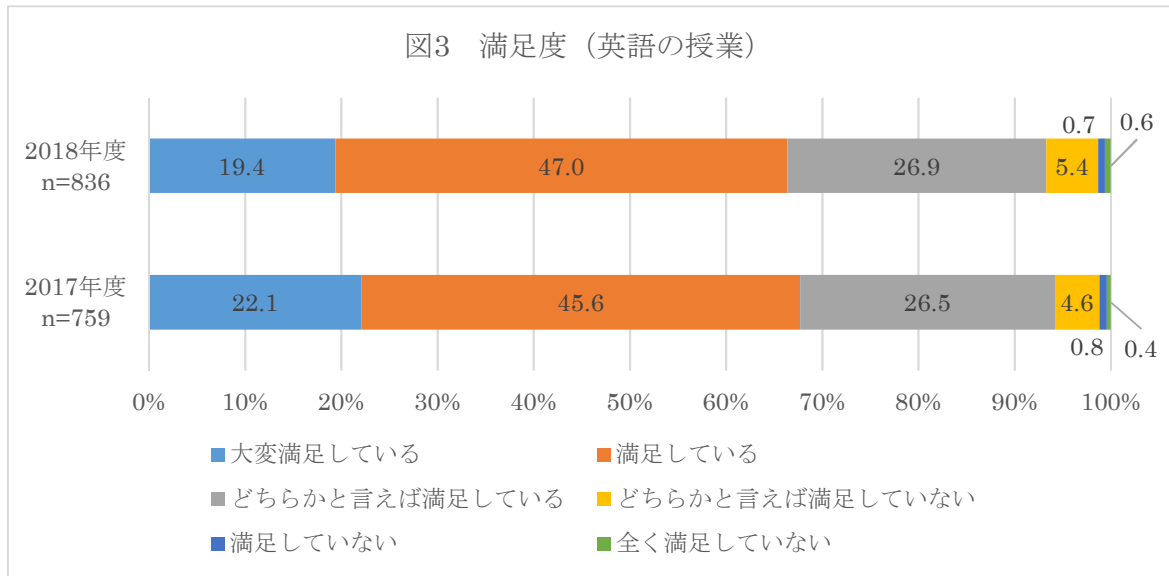
表14 志望順位別に見た授業満足度得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.70	0.763	237	$\eta^2 = .021$
第二志望	4.65	0.675	162	
第三志望	4.64	0.614	167	
第四志望以下	4.44	0.845	256	

さらに、次の図1～図5は、前年度の「授業満足度」の結果と比較したグラフである。2017年度から、授業満足度の質問尺度を4件法から6件法に変更したため、この報告書では2017年度と2018年度の比較のみ掲載する。

図1～図5を見ると、「大変満足している」を選択した学生の割合が、全ての項目で昨年度よりも低くなっている。「大変満足している」「満足している」「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合では顕著な差は見られないが、「大変満足している」学生が若干減少した理由は探る必要があるだろう。





(3) 理解が深められたと思う項目の集計・分析結果

図6は、「大学での4年間の学びを通じて理解を深めることができたと思うこと」を調べるため、「日本の歴史と文化に対する理解」「多文化・異文化に対する理解」「国際的な諸問題に対する理解」「現代社会で生起する諸問題に対する理解」「自然や環境問題に対する理解」「自己の身体に対する理解」「キリスト教に対する理解」「ジェンダー問題に対する理解」「自分の専攻分野に関する理解」「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の10項目の分析結果である。

「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合を見ると、「自分の専攻分野に関する理解」が最も高く、96.4%となっている。次いで「ジェンダー問題に対する理解」で92.1%、「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の91.0%となっており、「専門性と幅広い教養を持った女性」の育成を目指す、本学の教育の成果や特徴を顕著に表わす結果となっている。

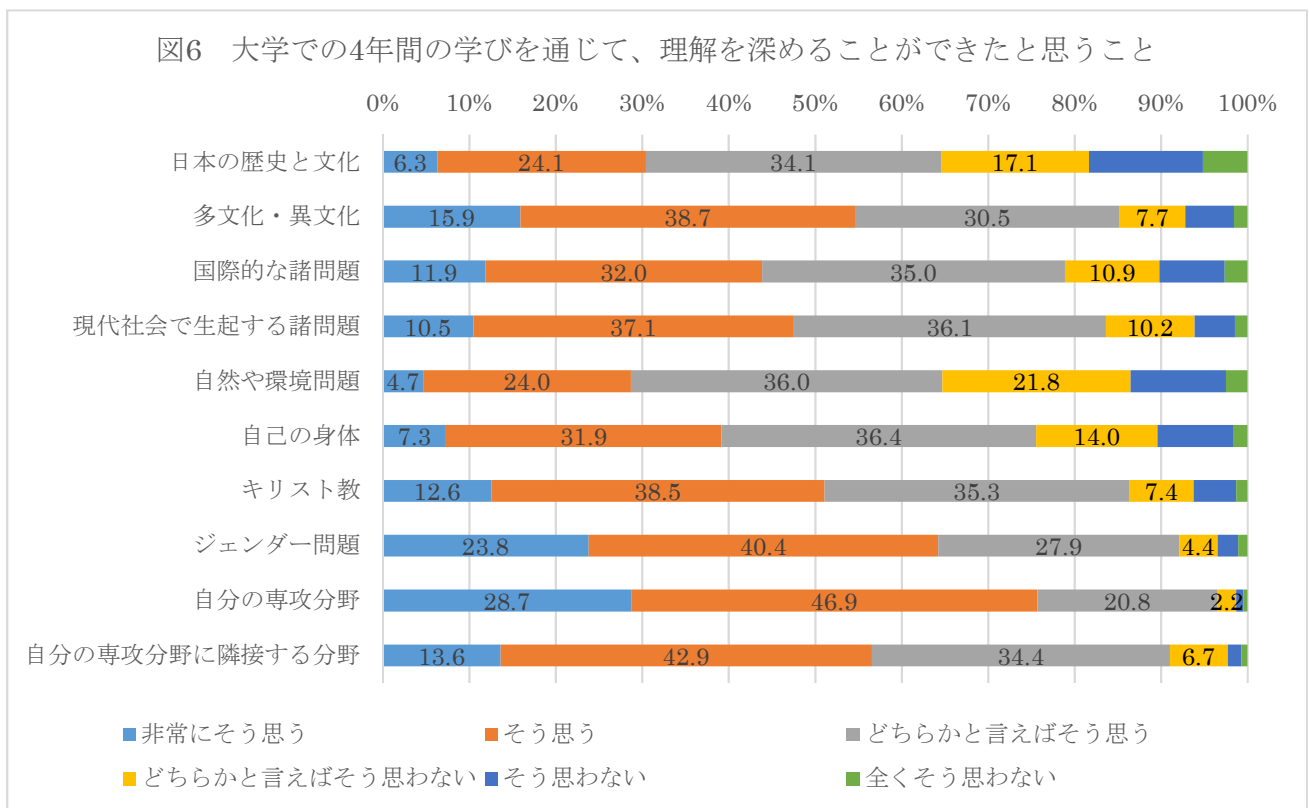


図6に示す10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「理解総合得点」(M=4.35, SD=0.751, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.886)として、専攻別、志望順位別に理解総合得点を比較した。

表15は専攻別の理解総合得点である。平均値が一番高い専攻でM=4.71、一番低い専攻でM=3.96であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .098$ であり、専攻間における理解総合得点の差は中程度であった。コミュニケーション専攻、数学専攻、情報理学専攻の点数が他専攻と比べてやや低いため、改善の方策を考える必要がある。

表15 専攻別に見た理解総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.64	0.644	33	$\eta^2 = .098$
日本文学	4.54	0.769	96	
英語文学文化	4.41	0.634	122	
史学	4.71	0.659	78	
国際関係	4.52	0.555	76	
経済学	4.28	0.770	55	
社会学	4.11	0.600	55	
心理学	4.23	0.604	77	
コミュニケーション	3.96	0.771	92	
言語科学	4.46	0.711	81	
数学	4.01	0.969	31	
情報理学	4.04	1.198	32	
合計	4.35	0.751	828	

理解総合得点を志望順位別に見ると、表16の結果となった。効果量を見ると $\eta^2 = .023$ と小さく、志望順位によらず、その得点に顕著な差がないことが分かった。

表16 志望順位別に見た理解総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.46	0.717	238	$\eta^2 = .023$
第二志望	4.33	0.708	164	
第三志望	4.45	0.665	165	
第四志望以下	4.20	0.836	257	

(3) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

図7は「大学4年間の学びを通じてどのようなスキルや力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について分析した。

「学術的な文献の読解力」、「人の話をきいて、要点をつかむ力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の5項目で、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合が8割を超えた。他の項目も全て7割を越えており、本学での学びを通して汎用的なスキルや力を身につけられていると考えている学生が多いことが分かった。しかし、プレゼンテーションやディスカッションに関する項目は、他の項目と比較して、肯定的な回答の割合が若干低くなっている。そのため、今後は授業においてアクティブラーニングやプレゼンテーション等の機会を積極的に取り入れることで、汎用的なスキルや力の底上げをはかりたい。

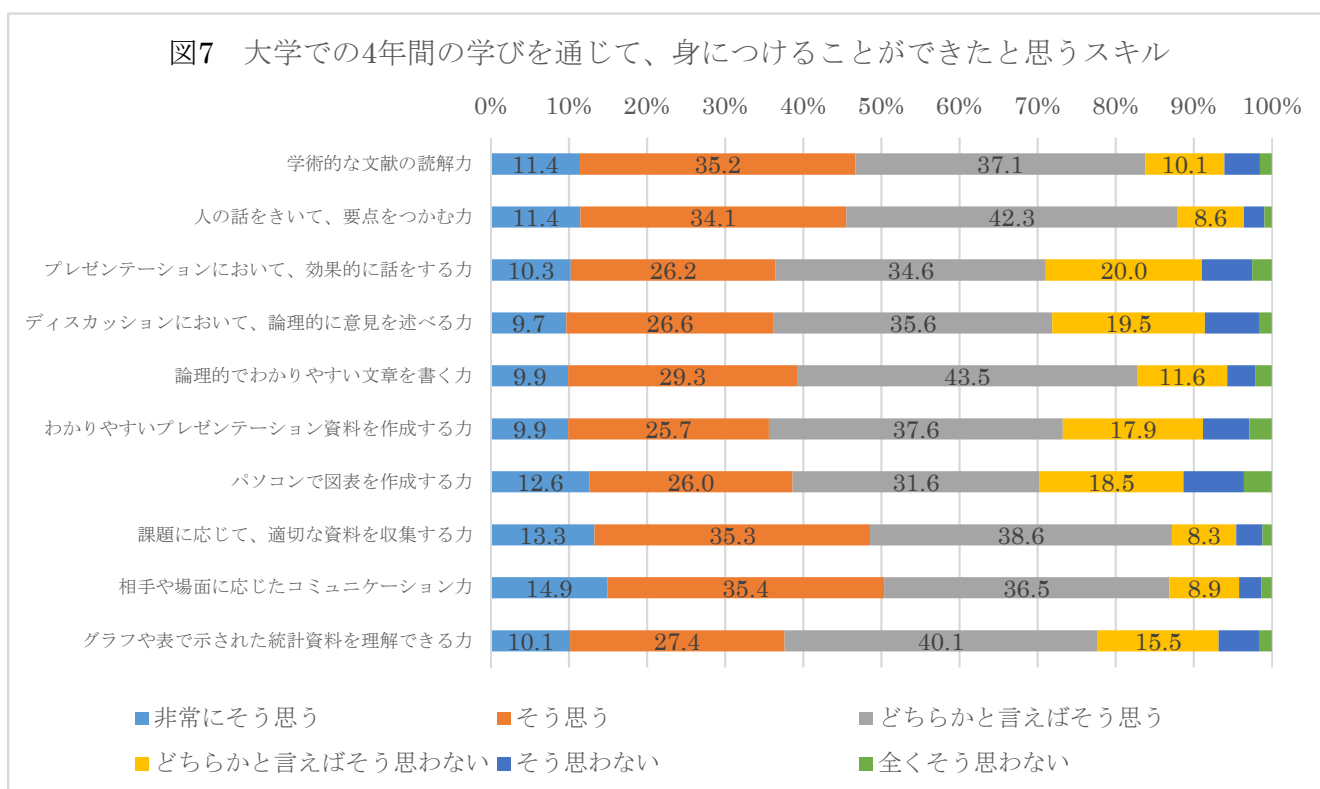


図 7 に示す 10 項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.23, SD=0.863, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.934) として、専攻別、志望順位別にスキル総合得点を比較した。

専攻別にスキル総合得点を見ると(表 17)、一番高い専攻で M=4.43、一番低い専攻で M=3.56 であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .041$ であり、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくはない。数学専攻のスキル総合得点が、他専攻よりも低いため、更なる分析やその原因を探る必要がある。

表 17 専攻別に見た授業に関するスキル総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.29	0.819	34	$\eta^2 = .041$
日本文学	4.22	0.867	94	
英語文学文化	4.17	0.810	123	
史学	4.40	0.736	78	
国際関係	4.24	0.809	74	
経済学	4.35	0.850	56	
社会学	4.00	0.788	56	
心理学	4.43	0.808	78	
コミュニケーション	4.34	0.830	93	
言語科学	4.21	0.784	83	
数学	3.56	1.315	31	
情報理学	4.12	1.159	32	
合計	4.23	0.863	832	

スキル総合得点を志望順位別に見ると、表 18 の結果となった。効果量は $\eta^2 = .003$ と低く、それぞれの得点に大きな差があるわけではないことが分かる。つまり 4 年間の学びを通じて身についたと感じる各スキルは、本学に対する志望順位が違う学生の間で顕著な差は見られないと考えることができる。

表 18 志望順位別に見た授業に関するスキル総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.27	0.829	241	$\eta^2 = .003$
第二志望	4.24	0.868	162	
第三志望	4.28	0.791	167	
第四志望以下	4.17	0.937	258	

(4) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

図8は、「大学での4年間の学びを通じてどのような能力身につけることができたと思うか」を調べるため、「問題を発見し、的確に把握する力」、「状況を的確に判断する力」、「課題に応じ、収集した情報を、効果的に活用する力」、「物事を偏りなく多角的に検討する力」、「問題を解決する力」、「肯定的な意味で批判的に考える力」、「数字やデータに基づいて物事を考える力」、「自らを律して行動できる力」、「責任感」、「倫理観」、「率先してグループをまとめリードする力」、「人間関係を築いたり調整したりする力」、「主体的に行動する力」、「自主的に学習を継続する力」の14項目について分析した。「数字やデータに基づいて物事を考える力」と「率先してグループをまとめリードする力」「自主的に学習を継続する力」を除く全てのデータで、肯定的な意見が8割を超えた。しかし、「率先してグループをまとめリードする力」は、肯定的な意見が64.3%と最も低く、改善の余地がある。また、生涯にわたって学び続ける女性、Society5.0においても活躍できる女性の育成のために、「自主的に学習を継続する力」や「数字やデータに基づいて物事を考える力」を身につけられる取り組みは急務である。

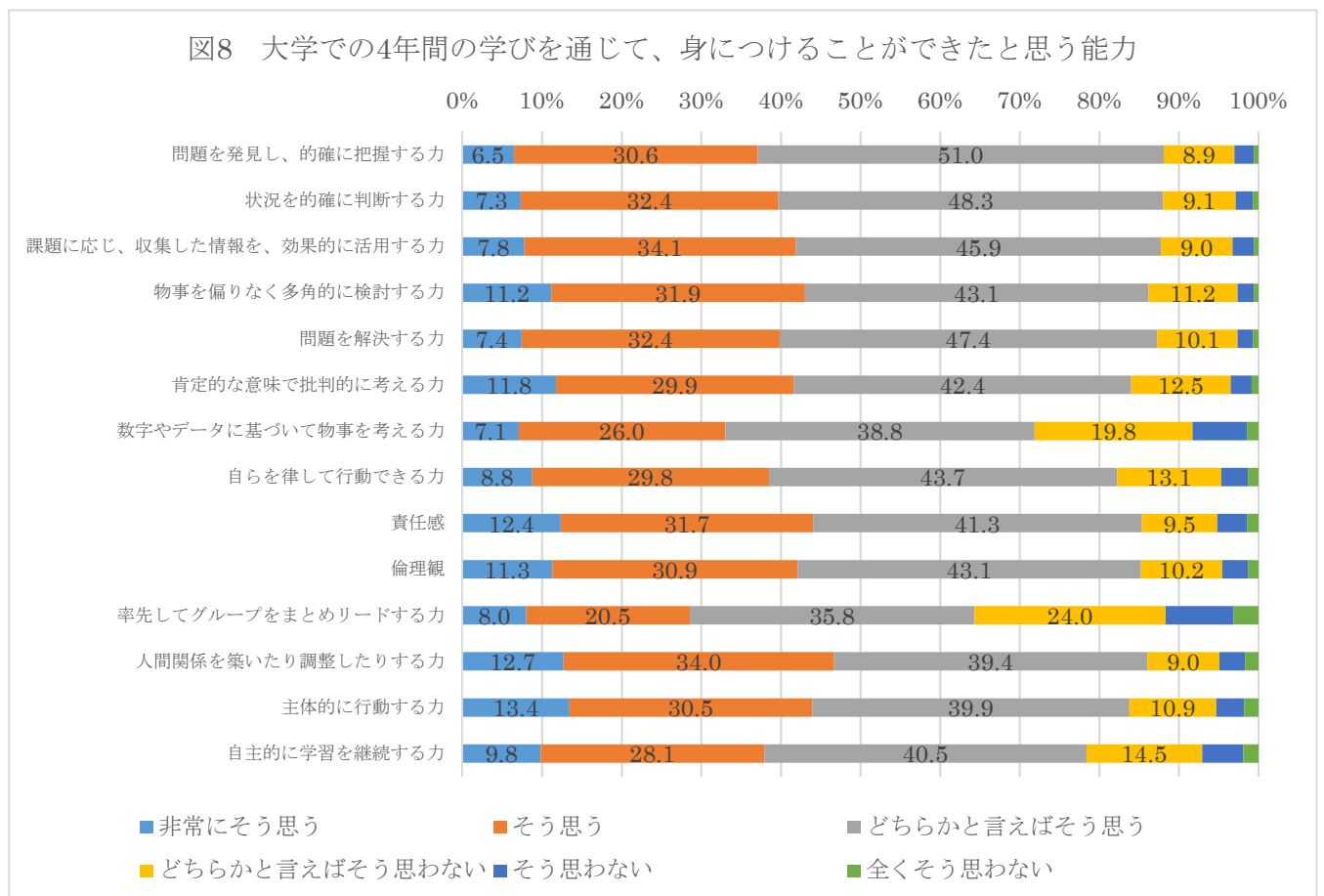


図 8 に示す 14 項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.26, SD=0.794, 最大=6, 最小=1 ; 因子分析で次元性も確認。α = .934) として、専攻別、志望順位別にスキル総合得点を比較した。

専攻別に能力総合得点を見ると (表 19)、一番高い専攻で M=4.44、一番低い専攻で M=3.90 であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .028$ であり、専攻間における能力総合得点の違いはさほど大きくはない。

表 19 専攻別に見た授業に関する能力総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.44	0.852	33	$\eta^2 = .028$
日本文学	4.25	0.829	93	
英語文学文化	4.32	0.678	124	
史学	4.43	0.787	78	
国際関係	4.33	0.725	73	
経済学	4.29	0.707	56	
社会学	3.95	0.778	56	
心理学	4.28	0.790	80	
コミュニケーション	4.23	0.714	92	
言語科学	4.21	0.730	82	
数学	3.90	1.137	31	
情報理学	4.33	1.151	32	
合計	4.26	0.794	830	

能力総合得点を志望順位別に見ると、表 20 の結果となった。効果量は $\eta^2 = .005$ と低く、それぞれの得点に大きな差があるわけではないことが分かる。つまり 4 年間の学びを通じて身についたと感じる各能力は、本学に対する志望順位が違う学生の間で顕著な差は見られないと考えることができる。

表 20 志望順位別に見た授業に関する能力総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第一志望	4.30	0.807	241	$\eta^2 = .005$
第二志望	4.29	0.720	162	
第三志望	4.30	0.802	165	
第四志望以下	4.18	0.822	258	